

平成27年度在宅医療・介護連携拠点事業 第1回認知症ケア研修会 事例提示票

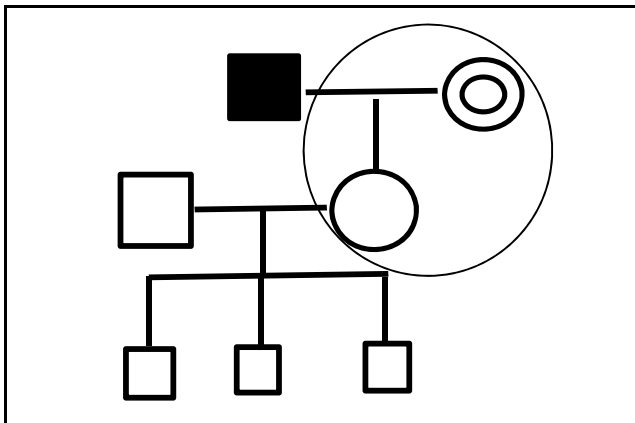
■ ケースタイトル

徘徊を繰り返す高齢者が安心して地域で生活するためには

■ ケース概要

80代女性。一軒家で娘と二人暮らし。娘は仕事のため日中は独居となる。数年前から物忘れがあり、最近では通帳や年金等で気になることがあると、毎日郵便局や交流センターに出向いて混乱した言動を繰り返し、近隣に務めている孫の職場に突然行って騒ぎ出す等の問題行動が顕著になってきた。近隣住民等からの相談を受け、地域包括支援センターで介入。本人は、身体的には非常に元気で認知症に対する自覚は全く無い状態。最近まで働いていたため“自分はしっかりしている。年寄り扱いして欲しくない。私は仕事をしたい。”との気持ちが強く、自尊心を傷つけられるような言動には強い拒否を見せる。娘と相談の上、介護保険の申請と介護支援専門員の選定を行い、仕事に行くと呼称してデイサービスの利用を開始した。落ち着いて利用できていたが、“仕事に行っている”との思いからデイサービスの食堂に入ってしまう等の行動が見られ、また、デイサービス送迎時に本人が家におらず、度々デイの職員が家周辺を搜索してコース変更をしながら送迎する状態となってきている。そのような状況のなか、先日デイサービス送迎時に本人が行方不明となり、同日夜に警察により保護される事案が発生した。娘の勤務態勢及びサービスの見直しを図ると共に地域での見守り体制をどのように構築するか検討が必要な状況である。

■ 家族構成



■ 介護者・家族の状況

娘(50代):
夫と三人の子どもがいる。元々は家族と他市に住んでいたが、本人の認知症状の悪化に伴い、目が離せない状況になったため本人宅で寝泊まりするようになる。日中は仕事をしており、休みは不定期。
孫:
本人宅近くの会社に勤務。

■ 主疾患

アルツハイマー型認知症(平成24年3月頃)

■ 受診状況

月1回娘の送迎により通院。

■ 介護保険(サービス内)

要介護1→要介護2 デイサービス週5~6日程度利用(徐々に利用頻度増)

■ 経済状況

年金受給中。経済的には特に問題なし。

■ 住宅環境

2階建て一軒家

■ ADL状況 ランク:A1

■ IADL状況

【移動】	自立	ふらつきなく歩行可能	【調理】	鍋焦がしあり。娘が元栓を閉めると怒り出す。火のつけっぱなしを指摘しても、自分で付けたことも忘れてる。
【食事】	自立	箸を使用してむせなく食事摂取可能	【洗濯】	未実施
【排泄】	見守り・声かけ必要	尿失禁有り。オムツは拒否し布パンツ使用。自ら気づいた時は自分で交換するが、他者から指摘されると拒否。	【買物】	娘と一緒に買い物に行く
【入浴】	声かけ	娘が声かけし自宅で入浴している。洗身は自立	【掃除】	基本的には娘が行っている。

■精神状況

【認知症の状況：自立度】 ランク：Ⅲa ・デイ利用日の朝に電話しても忘れて家を出てしまう。 ・下着を何枚も重ね着する、ボタンの掛け違いあり、手を出すと振り払って拒否する。 ・亡くなっている夫からの電話を待ったり、実際にはいない人が見えて「帰ってもらえ」と娘に言うことがある。 ・全般的に短期記憶低下著名であり、直前のことを忘れ、指摘されるとすぐにカッとなることがある。	【服薬】 レミニール、メモリー 朝・夕内服。娘が管理している。
	【金銭管理】 通帳は娘が管理し少額の現金のみ本人に渡している。

【本人の意向】	・仕事を続けたい。
【家族の意向】	・物忘れが始まり、徘徊が始まり、次はどうなるのか不安がある。 ・出来る限り家ででの生活を続けられればと思う。薬で抑えず、今の元気な母のまま過ごしてもらいたい。できればショートステイを利用して欲しい。
【関係者の意向(不安・課題)】	・娘が出勤の時間を遅らせ、デイサービスでも臨機応変に対応しているが、どうしても1人になる時間ができてしまい、徘徊の恐れがある。どうすれば安心した在宅生活が続けられるか。

■生活歴 経過

【生活歴】 他県出身。約40年前からつくば市で生活している。夫が生きていた頃は自宅の工場で夫の仕事を手伝っていた。その後は最近まで近所で賄いの仕事をされていた。
【経過】 ○平成26年5月 民生委員より、今のところ外出して戻れなくなることはないが、年金のことで気になると1日2回も交流センターに出向いている。どうしたらよいか？と相談の電話が入る。 娘に連絡。震災後に急激に認知症状が出現し、アルツハイマー型認知症の診断を受けている。年金に固執して頻繁に交流センターや郵便局に行ってしまう。郵便局には認知症である旨を説明してある。娘としてはデイサービスを利用して欲しいが、以前介護保険を申請しようとした際、本人が怒り出してしまった経緯があるとの話あり。 交流センターに連絡。年金のことで形相を変えて頻繁に交流センターに来るため、その都度説明を繰り返し、民生委員に連絡して家に送ってもらおう対応をしているとのこと。
○平成26年6月 健康調査と称して認定調査を実施。短期記憶の低下が顕著な状況であった。
○平成26年7月 交流センターより、“本人がバスに乗車しようとしている”と連絡が入る。運転手が機転をきかせ「回送中」扱いにして本人を下車させてくれ事なきを得た。すぐに自宅訪問し本人の様子を確認するが本人は既に忘れていた状況。 徘徊SOSネットワーク事前登録を行うとともに、同時期に要介護認定結果も出たため、デイサービス利用を開始した。
○平成27年5月 担当CMより、本人が行方不明と連絡有り。同日夜間警察が発見し帰宅する。
(サービス利用後の経過) 当初、週3日でデイサービスの利用を開始。送迎時に本人不在の場合が多く、その都度行きつけの場所で本人を発見し送迎対応を行った。昨年冬からデイ職員が事前に電話連絡を開始するが状態は変わらず。今年に入り、行きつけの場所におらず、遠方を徘徊して警察に保護される事件が何度か発生した。 本人は職員という意識でデイに通っており、配膳や食器洗いを担当しているが、他利用者や女性スタッフに対して怒鳴る等の行動が見られている。最近では以前よりもイライラする回数が増えている印象である。

■検討課題

デイサービス側が臨機応変に対応し、娘も出勤時間を遅らせるなど、出来る限りの対応は行っているが、どうしても本人が1人になる時間があるため、徘徊の危険性は拭えない。 住み慣れた地域で安心した生活を継続するために、どのような支援が考えられるか。
①主治医との連携で改善できる点はないか？ ②関係機関、地域住民等とどのようなネットワークが構築できるとよいか？